

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



ういういの会

左から すぎ はら 杉原 こう じ 廣二 さん

代表 まつ もと 松本 こ まり子 さん

きた がわ よし かず 北川 芳一 さん

今回は、ういういの会さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願ひします。早速ですが、ういういの会について教えてください。

う：ういういの会(以下「う」)：私たちは「つながるう、みんなでーめぞう、暮らしやすいまちを」を合言葉に、2012年10月から活動しています。主な活動は、市民活動のネットワークづくりのための「つながりマップ」づくり、さまざまな分野で活動している人を講師としてお呼びする「まちセンカフェ」の企画運営、ほかにも市民活動交流会やわいがや広場などを行っています。

情：「つながり」がキーワードですね。

う：そうですね。長久手市って多くの人が、さまざまな分野で活動してるんですけど、ネットワークはできあがってないんです。点で活動してるイメージですね。その点と点を「つながり」線にしたいという想いで活動をしています。

情：なるほど。それにその先の目標などはありますか？

う：そうですね。長久手市って多くの人が、さまざまな分野で活動してるんですけど、ネットワークはできあがってないんです。点で活動してるイメージですね。その点と点を「つながり」線にしたいという想いで活動をしています。

情：「つながり」がキーワードですね。

う：そうですね。長久手市って多くの人が、さまざまな分野で活動してるんですけど、ネットワークはできあがってないんです。点で活動してるイメージですね。その点と点を「つながり」線にしたいという想いで活動をしています。

情：それなら、いっしょにがんばる気がします。

う：それを発信することも市民活動、まちづくりのひとことなんです。例えば誰かが「〇〇で困っています」と助けを求めると、それに「私、それできますよー」と手を挙げてくれる人が現れる。自分にはできなくても、できる人を紹介してあげる。そうやって助け合いの輪をどんどん広げていけば、すばく住みやすいまちになります。

情：なるほど。確かに、自分から「〇〇できますー」とはなかなか言いにくかったり、そもそも自分ができるという認識がなかったりしますが、困りごとに対応するかたちであれば言いやすいですね。「あ、私のこの特技って人の役に立っただって気づかされることもありそうですね。それでは、最後に市民へのメッセージをお願いします。

う：私たちは「自分たちが住んでいるまちだからこそ、楽しく、住みやすいまちにしたい」という想いで活動しています。でも、決して難しいことにはしていません。みんながやりたいことをやる範囲でやっているだけなんです。だから、難しく考えず、困っていることがあったら、大きな声で発信してみてください。

う：「コラボレーションを起したいです。AとBという活動をしている団体とBという活動をしている団体が出会ったことで、新しいこと、新しい活動が始まるみたいな。そういう強いつながりを生みたいですね。

情：化学反応みたいなイメージですかね。

う：そうですね。目指しているのは災害時でも地域の人たちだけで何とか乗り切れるくらい強いつながりですね。最初からはハードルが高いですけど、いっしょかな。

情：そのためには多くの人に市民活動に参加してもらう必要がありますね。理想ではあるけど、なかなか難しいですね。

う：市民活動やまちづくりと聞くと、みなさんまずは「自分は何ができるのか」を考えると、思うところも。もちろんそれはとても大切なことなんですけど、でも、少しハードルが高いですね。

情：高いですね。私自身、「あなたはまちのために何ができますか」って聞かれたら黙り込んでしまっ気がします…。

う：でも「今、困っているのはありませんか」「生活していて不便なことはありませんか」「聞いた話ではありますけど、か」って聞かれたらいっしょに考えますか。



わいがや広場～リモート編～
市民同士が気軽に語り合い、交流するイベントをオンラインで行います。

時 8月27日(木) 13:30～15:30
申 杉原にメール(k.sugi@luck.ocn.ne.jp)または電話(090-4854-1269)で申込